太陽のてがみ

てがみには、住所・氏名・年齢・職業を記入してください。（広報掲載時に氏名は載りません。）なお、ひぼう・中傷や営利を目的とする内容は掲載しません。

「環境危機に対する白糠の新たな挑戦」を読んで

70代・男性

広報2月号と一緒に全戸配布された「白糠町環境危機提言紙」は、地球環境の危機に対して町が目指す新たな対策を記したものでした。

同紙には、本町におけるこれまでの実践と、さまざまな課題を解決しながらも目指す将来像への取り組みが具体的に記載されており、「気候変動に対応した農業、漁業」や「地域材を利活用した循環型林業」などへの挑戦に関する内容でした。

これらの取り組みが現実化に向けたチャレンジにより、町の活性化や町の繁栄につながるチャンス、そしてまちの未来を変える素晴らしいチャレンジとなることを確信しました。

昨年、堅達氏が「脱炭素革命への挑戦」というテーマで講演し、その講演会の最後に質問の時間がありましたので「植物や森林等にCO2を吸収させる方法以外で人工的に大気中からCO2を除去する方法や、除去されたCO2を貯留または活用する実証実験がどの程度なされているのか」について質問をしました。堅達氏からは「実証試験では成功していますが、採算が合わないことから商業ベースにのらないために実用化されていない」とのことでした。

本町がゼロカーボンシティを目指すために「CO2や有毒ガス等を多大に限りなく発生させている紛争等の中止」「実験段階では成功しているCO2の除去、貯留、そしてCO2活用実用化のための予算化」に関する政府等への陳情・請願を「環境危機に対する白糠の新たな挑戦」の一つとして加えていただけないものでしょうか。白糠町が世界を動かすリーダーへと近づくために。

お答えします

タブロイド版の環境パンフレット「白糠町環境危機提言紙」は「環境教育と環境に配慮したまちづくり」への理解と協力をいただくため、配布させていただきました。

本町では「まちは子や孫への贈りもの」との考えのもと、「第一次産業の再興と振興」、「町民の健康づくり」、「教育（意識改革）」をまちづくりの3つの柱とし、特に第一次産業の再興と振興は、まちを未来の子や孫へつなげていくために最も重要であることから、さまざまな取り組みや新たな可能性へのチャレンジをしてきました。

しかし、地球温暖化による気候変動により、これまで育っていた農作物が育たなくなる、海水温の上昇で獲れていた魚が獲れなくなるなど、自然と大きく関わりのあるこの第一次産業に大きな影響が出てきました。一人一人が「環境」を意識し、行動を起こさなければこれからの町の発展は望めません。また、この気候変動は、世界規模で自然環境や人々の暮らしにさまざまな影響や被害を与える深刻な問題となっています。

2022年2月1日、本町は2050年までに地球温暖化の原因となる温室効果ガスを実質ゼロとする「ゼロカーボンシティ」を表明し、2030年度までにCO2排出量の50％削減を目標に掲げました。

脱炭素化は地球環境を守るためだけではなく、新たな産業づくりによる地域経済の活性化や、雇用創出による人口増加など、町の繁栄にもつながる取り組みです。

今後は、これまでと同様にまちづくりの3つの柱を推し進めるとともに「環境」を大きなテーマとして位置付け、世界の環境問題に目を向けながら将来に向かって、いま、我々が何をしておかなければならないのか、そのためには何をなすべきなのかを考え、まちづくりを進めていきたいと思います。その上で、ご意見の事項も含めて環境問題について国や北海道にお願いしなければならないこと、町がしっかりと取り組まなければならないことを見極めながら、さまざまなチャレンジを続けていきたいと考えておりますので、ご理解をお願いします。

〈企画財政課〉